

挑む!

川魚の研究続ける高校教諭

富永 浩史さん(34)

新種登録へ 燃えるカマツカ愛



高校教諭と研究者の二つの顔を持つ。根底には、川魚への尽きることのない愛情がある。幼少のころ、芦屋川でオイカワやカワムツを捕まえて遊んだのが原点だ。

特に好きなのが、カマツカ。母親の実家がある京都府宇治市の用水路で、小学生のころから観察していた。体長20センチほど。北海道と沖縄を除く各地に生息するが、川底に潜んでいることが多く、あまり知られていない。転機は高校生のころ。カマツカは1

兵庫県芦屋市出身。2007年関西学院大卒業。京都大学院博士後期課程を中退し、11年から現職。生徒からのあだ名は「カマツカ先生」。

種類しかいないはずなのに、頭の形やシルエットがわずかに異なる2種類がいるように見えた。「新種がいるかも」。飼育してみると、片方はやせ、もう一方はやせにくかった。

大学院生の時、全国の川を訪れ、約1200匹を採集。DNAを調べ、遺伝子が3系統に分かれていることを突き止めた。関西学院高等部（兵庫県西宮市）で生物と地学の教員を務めながら論文を書き、2015年に発表。17年、日本魚類学会の論文賞を受けた。今年度は、学内の制度で大学院へ。新種登録をめざし、形の違いなどをまとめた論文の執筆に取り組む。「研究を続けて面白さを伝え、生物に限らず科学の道に進む生徒を一人でも増やしたい」。来春、再び教壇に戻る。

◆次回は10月13日に掲載予定です。
文・写真 鈴木智之

記者から

カマツカへの愛をひしひしと感じた。新事実を突き止める強い探究心。私も持ち続けたい。